

それは、低賃金の労働力、広大な農地を工場地帯に、豊富な電力や資源、そしてメコン川の豊かな水、それが魅力的に見える人々がラオスに群がりつつあると思えてなりません。

10年後緑豊かな国、そして美しいメコンが果してあるのかと思わずにはいれませんでした。物が豊かになることで、ラオスの心の一部が失われることが無いようにと切に望む旅でした。

我々が活動するカムアン県は衛生面、教育面でまだまだ支援を必要とする地域であり、ラオスの心そのままです。「じゃっと」の活動を通じ子供達の成長を助けることが「ラオスの将来」に寄与出来るのではないかと考えております。新しい年、皆様と一緒に取り組んで行きましょう。宜しくお願いいたします。

2013. 12月 じゃっとスタディツアー報告



じゃっと理事 小幡順子

12月22日(日)

早朝、福岡空港集合

10:30-19:20 ホーチミン経由ビエンチャン着

Dr.ソムチット、Dr.コンサップとホテルで打ち合わせ

12月23日(月) ビエンチャン市内支援校視察

10:45~11:00 ナテ小学校視察

旧校舎屋根の梁がシロアリ被害で破損しているため支援の要望があり、検討の方向です。現在、屋根撤去中。

11:30~12:00 バンチャン小学校視察

昨年度支援した校舎屋根を確認。

屋根の梁がシロアリ被害で破損していたが、金属製の梁に交換し上質トタン板屋根に改修。

14:30~15:00 サムケ小学校視察

10年ほど前に日本人の支援で建設された新校舎。トタン屋根や扇風機などが傷んできたので新たな援助の要望がありました。

ナテ小までの往路は従来の10号線からの道路を利用して1時間40分かけて移動しました。復路は新しくできた道路を利用して13号線方面に出てビエンチャン市内へ1時間ちょっとで移動しました。ナテ小裏にあるはしげ（右写真）を利用するために安全性に少し不安がありますが、このルートを使えば今後のツアー参加者の負担は軽くなりそうです。



ホテルまでの帰路途中にあるアイテック（東京ビックサイトのような見本市等が行われる場所）に立ち寄ると、

現在のアイテック横に新しいアイテックを建設中でした。7~8階の巨大な施設になるらしく大きな工事でした。アイテックだけでなく、ビエンチャン市内は各地で建設ラッシュです。以前より装飾的な建物が増えてきたように感じました。

12月24日(火) ビエンチャン~カムアン県タケク移動

7:30~13:00 途中2回のトイレ休憩を挟んで300km以上を国道13号線南下。

14:00~14:30 カムアン県保健局副局长パーサク氏と会見

14:45~15:10 カムアン県教育長副局长と会見

15:25～16:00 ISAPH 訪問 福山修次氏、田川薫氏と会見

18:40～20:30 保健局長トラカム氏 等を招待して会食

今年度より母子保健支援を主体とする ISAPH と組んでカムアン県セバンファイ郡の3つの小学校で活動を開始するにあたり関係省庁を表敬訪問しました。保健局の担当者によると、セバンファイ郡では寄生虫保有率が50%を超えその理由として生魚を食べる習慣があるためだという事でした。各種トレーニングや水、トイレの整備などを行っているが学校保健からのアプローチということで期待しているそうです。

今回、共同で活動することになる ISAPH は母子保健を中心とする NGO です。食を中心に活動を行っているということですが、食事のタブーなど因習がその活動の推進を遅らせているということでした。



12月25日(水) 支援校視察

7:35 ホテル発 13号線南下

9:10～13:20 Tung (トゥン) 小学校訪問

13号線沿いにある 児童数150人の学校。今回始めるプロジェクトの対象校3校のひとつです。到着後、セバンファイ郡教育局立会いの下、支援校3校と今回机椅子を寄贈する7校の関係者への日本から持参した文具類等の譲渡式、机椅子記名、バナー、昼食会を行いました。

13:30～14:15 Bunh Hau Na (ブンフアナー) 小学校訪問

13号線沿いにある児童数268人、支援対象校のひとつです。今回援助した道路からトイレまでの水道施設設置の確認と学校施設の確認を行いました。



セバンファイ郡には10校を超える小学校がありますが、交通の便が悪いため13号線に近い3校への直接支援となります。カムアン県の保健局や教育局、ISAPH、そして Dr コンサップなどが検討して、ラオ人主体の学校、少数民族主体の学校、ラオスでは少数派のキリスト教徒地区の学校の3校を選択しました。

机椅子を寄贈した7校は教育局に選んでもらいました。Dr コンサップいわく「決して行くことはないほど不便な小学校にこの机椅子は運ぶので、書き漏らしがないように十分確認して記名してください」。それほど交通の不便な場所にあるそうです。そのため Tung 校で7校分すべての記名作業を行いました。寄付をいただいた方にはこれまで寄贈した学校の写真を添付していましたが今回は、Tung 小学校の写真を載せますのでご了承ください。



記名を済ませた机椅子は早速それぞれの学校が手配したトラックやトゥクトゥク（トラクターを改造した大八車のような乗り物）に載せられ、式典の後それぞれの学校へ運ばれていきました。

Bunh Hau Na 小学校は少数民族主体の学校です。家庭ではラオス語ではなく少数民族の言葉を使い、プレスクールでラオス語を学んでから小学校へ進学するそうです。3棟ある校舎のうちひとつは、以前日本人が寄付したというとても立派な校舎でしたが、他の2棟は隙間だらけの壁や屋根です。幸い13号線沿いにあるため水道本管から近く、校内への水道引き込みを援助することができました。

もうひとつの支援校 Don Makkba(ドンマークバ)は一日がかりの距離にあるということで、今回視察は行えませんでした。

タケク滞在ホテルでは、タケク市内上下水道整備のため滞在中の日本企業職員と一緒にしました。私たちが学校の水道設置援助をしたと話すと興味を示され、カメラの画像をみせると、「ビニールホースのような水道管ですがこれは堅く大丈夫だろう」とのことでした。



12月26日（木）カムアン県タケク～ビエンチャン移動

12月27日（金）ビエンチャン市内観光、ブッダパーク、鉄道駅、タラサオなど

タイとの国境にかかる友好橋近くにあるターナレーン駅。開設当時辺りに何もなくて駅だけがポツンとある印象でしたが、中国の援助で中国昆明まで鉄道延長工事が始まったようで、友好橋のゲート周辺もデューティーフリーやマーケット、カジノで賑わう界限となっていました。そこで売られている商品のほとんどは中国製です。市内を観光して回ると、ラオスが中国経済に頼っている現状をヒシヒシと感じます。Dr ソムチットによると現在あるチャイナタウンとは別に、新たに8エーカーという広大なチャイナタウンが開発中だそうです。

12月28日（土） 早朝、福岡空港着 現地解散

新プロジェクトの打ち合わせということで理事 4 人のみによるツアーとなりました。カムアン県までの長距離移動など不安な面もありましたが、タケクまでの 13 号線は主要幹線だけあって整備されており、途中には新設ガソリンスタンドも多く、そこでのトイレ休憩となったため快適でした。セバンファイ郡にある支援校にはトイレが設置され、掃除が行き届いていたのでこちらも気持ちよく使うことができました。

今回、タケクのホテルに忘れ物をするというハプニングがありました。忘れ物に気付いたホテル職員は、私たちが面談した保健局パースック副局長と連絡をつけ、翌日の長距離バスに頼んで私たちの手元に届けてくれるという実にラオス的な対応を取ってくれました。日本の「おもてなし」が話題になっていますが、共通する国民性をラオス人に感じてしまいます。

ラオスの地方都市ということで参加を控えられた方もいるかもしれません。今回視察してみて、私個人的にはラオスの首都ビエンチャンと地方都市を見ることができてよかったです。次回は、みなさんと一緒に、タケク市内にあるシコータポーン大仏塔前の屋台でメコン河を眺めながらビアラオをいただきたいと思います。ぜひご参加ください。

【カムワン県訪問のまとめ】

帖佐 徹

明けましておめでとうございます。さて「じゃっど」の新しい支援対象として、カムワン県セバンファイ郡シーブンファン地区を訪問しました。この地区は私の務める聖マリア病院グループの NPO「ISAPH」の活動地域です。ここで長く小児栄養改善のプロジェクトを実施しています。現在は Dong Savan 村で、栄養改善の一環として、寄生虫対策に注力しています。「じゃっど」もこれに協力して、地区の 3 つの小学校を起点として寄生虫対策を含め、学校保健をやっていく予定です。私は 1992 年から三年間、ラオスで JICA 公衆衛生プロジェクトの予防接種拡大事業 (EPI) 専門家として、何回もカムワンを訪れています。当時の知り合いが皆偉くなっています。現在の県保健局長トラカム先生もその一人で飲み友達です。Dr コンサップや Dr ソムチットもよく現地を訪問しており、知人も多いようです。活動するにはコミュニケーションを取りやすい場所です。ただ、現状はそう甘いものでもありません。昨年 6 月も現地訪問して、ISAPH の寄生虫検便検査の報告等も聴かせてもらったのですが、かなりの陽性率です。ラオスで問題になる寄生虫は、川魚の生食から感染する肝吸虫 *Opisthorchis*、足の裏や水遊び中の皮膚から感染する鉤虫 *Hockworm* がメインです。Dr コンサップも、「じゃっど」ミッションの直前に多忙な時間を抜いて、Tung 小学校の検便をしてきましたが、児童 138 人中それぞれ 31%、19.5% の感染率でした。両方持っている子も 8% います。これらの寄生虫は肝硬変や貧血など怖い病気を引き起こしますが、その感染経路が、ラオス人の生活パターンと極めて密接なため、感染予防が難しいのです。「魚を生で食べるな」「はだして歩くな」「川で泳ぐな」等と口で言っても行動変容を呼び起こすのは困難です。我々でも、「酒を飲むな」「おいしい物を食べるな」と言われても簡単に従うでしょうか。虫下しをのませればいいではないかと意見も出そうですが、これもそう簡単ではないのです。肝吸虫にはプラジカンテル、鉤虫にはアルベンダゾールという駆虫剤があるのですが、少ない容量だと 100% 駆虫率が得られません。しかし大人の容量を子供にものませるかという、現地保健スタッフの躊躇があります。さらに、一度駆虫に成功しても、生活パターンが変わらなければ、再感染はきっと起こります。いやはや、我々のやって来た学校保健の教育の方法論が、どれほどこの地域の人々に伝わり、子供の健康を守るのか、なかなかチャレンジングな課題です。いろいろと戦略を練る必要があるのでしょう。



事前に検便をしてデータを集めました



青空のもとで歓迎の宴



アマイソングをすぐに覚えて披露



校庭の一角にある購買部（おやつも売ってます！）



あなたの夢はなあに？

——ツン村小学校の生徒にインタビューしました——

2013年12月25日

①クムパーソンちゃん 11歳（5年生）



将来の夢：小学校の先生

机椅子譲渡式の前にアナマイソングのCDを流している最中、Dr コンサップの「もう覚えたかな」の問いかけに女の子で最初に「覚えた」といってみんなの前で歌ってくれた子です。将来の夢は？と尋ねると「先生。小学校の先生」と元気よく答えてくれました。リーダー的な性格のようで、その後の歓迎会でも他の女の子たちと一緒に踊りを披露してくれました。



②トンスック君 年齢不明（3年生）

将来の夢：軍人

「歳を教えて」の問いに、「知らない」と答えたトンスック君。繰り返し尋ねると「俺何歳だっけ？」と周りのお友達に尋ねていました。でも、将来の夢を尋ねると「軍人」と即答でした。



③オーヘーカン君 10歳4年生



将来の夢：軍人

トンスック君に学年を教えてくれたお友達です。「僕にも聞いて」という顔で近づいてきてくれました。どうやら将来の夢は「軍人」という男の子は多いようで、トンスック君の答えにうなずいている子が何人かいました。



インタビュー中、たくさんの子供達に囲まれた小幡理事

